

白山 石徹白川 初河谷～倉谷

藤岡

【日時】 2010年7月17(土)～7月19日(月)

【メンバー】L藤岡、田村、佐藤、渡辺

7/18(土) 雨のち晴れ

初河谷は駐車場から八反滝まで登山道が続いている。うっかりして沢の右岸側の踏み跡をたどったら、途中から道がなくなってガレた沢型から沢へ降りると反対側から登山道が続いていた。心配していた水量も濁りのない平水で、特に地盤が危険な気配も感じられない。対岸から左岸側の側壁を見ていたが、簡単に取り付けそうなどころは見当たらなかった。八反滝の前のベンチでスパイクを装着し沢床に降りる。大系では30mとあるがほぼ垂直に落ちており、見上げるとかなりの迫力がある。少し戻った左岸側に小さくガレたルンゼがあり、7-8m登るとその上は草付きになってやや傾斜が落ちている。ホールドは豊富だったので最初はザックをしょって登ったが最後段にあがるところに足場がなく腕力頼みになったので、一旦降りて空荷でロープを引く。立ち木を掴んで這い上がり、その上は草付きを慎重に登って30mぎりぎり木に支点を取る。一旦降りてザックを取りに戻る。後続を待つ間に田村さんとその先へ進む。ロープなしでも行けそうだがまだ全員シーズン始めて体が慣れてないし、落ちたらやっかいなのでここもロープを付けてテラスになっているところまで左上する。その先はロープなしで落ち口付近までトラバースできた。おじさん4人でのんびりロープを使って登っていたらこの巻きだけで2時間半もかかってしまった。



左：八反滝、上：25m滝

しばらくゴーロを歩くともうひとつの25m滝。これまた側壁を削り取って豪快に落ちている。わっ

さかわっさかの大坂わらじの記録にある左岸ルンゼを覗いてみると、上部で少しかぶっているが空荷ならなんとか行けそう。ただ後続でも泊まりの荷物をしょって登るのはちょっと厳しいので、少し戻った右岸から高巻くことにした。スパイクを付けて逆層の壁を2mほど上がると草付き。ただし逆層の岩の上に土が乗っており見た目より歩きにくい。支点など取れないので落ちないように木の生えているところまで上がり、そこから尾根上までボロボロの少しかぶった岩場を4mほど上がる。またザックを取りにもう一度登り返す。しばらく藪を漕ぐと滝上に出ることができた。この巻きもたっぷり1時間半もかけて、もういい時間なので天場を探す。

7/18(日) 快晴

今日はメインの上流部のナメと尾根の乗越した。大岩のゴーロ帯を歩いて滝を越えると大きなブロックが横たわっていた。その周辺だけ春の様相で芽吹いたばかりの独活やウルイやあぶらこごみがたくさん取れる。海の日に山菜が収穫できるとは思ってもみなかった。すぐ先の小さな崩壊地を横切るときに、ちょっと触った石積みが崩れて藤岡の足の上に転がってきた。直撃ではないので大事には至らなかったが、大きな岩で太ももと膝を打撲したのでしばし休憩する。その先の滝でロープを2回ほど出すと、その上は滑床が広がっていた。

なんと言えいいのか二口の大行沢ともちょっと趣が違って、滑床全体が小さく波打っているような地形で、なんとも言えず美しい。思わずメンバーから笑みがこぼれる。



結構続くナメ



苔むした滑床

その先もナメは続く続く、ほんとに綺麗だ。しばらく行くと沢床全体が苔で覆われたナメが出てきた。水の流れる苔の絨毯の上をヒタヒタと歩いて行くと、今度は苔に覆われた滝まで現れた。なんとも言えない不思議な滝だ。先を歩く耕至さんが声を上げているので追いかけて見て見ると、大きな一枚岩の傾斜のゆるいナメ滝がこれまた苔を被って落ちている。ひとつひとつを楽しみながら越えてゆき、楽しかったナメもようやく終わりとなった。

少し迷って相談の結果、丸山を目指すこととなり先へ進む。沢はすぐに細くなり徐々に左右から笹藪が煩くなってくる。水が枯れるとさらに藪は深くなる。笹といっても根曲がりに近いの太さがかなり苦労して、なんとかお昼過ぎに丸山へ到着した。稜線からは奥美濃と白山の山が少しだけ見渡せる。しばし休憩のあと倉谷へ向かって下降を始める。西北西よりに稜線をたどった後、高度を下げたが登ってきた南面よりもさらに密度の濃い笹藪だ。穂先が絡み付いて罨

のようになるので足が前に進まない。100m高度を下げるのに1時間もかかってしまった。ようやく沢に下りて支流を合わせた先で天場を求めた。

7/19(日) 快晴

今日はゴルジュを越えて下山して東京まで戻らないといけない。大きな滑滝を降りて大滝を懸垂すると、その先はゴルジュ帯だ。綺麗に磨かれたゴルジュで小滝と淵が連続している。捨て縄を2回と残置ハーケンを1回使って滝から淵へ降り、ロープをつけたまま少し泳いで這い上がる。

私は最初に懸垂したときにさっさとカッパを着込んでいたので平気だったが、田村さんと渡辺



大滝を懸垂すると



ゴルジュが待っている

さんは寒くて震えている。真夏日とは言え太陽も頭の上にはなく、泳ぐには早い時間だ。

その先の連続した淵は、めずらしく耕至さんが泳がずにうまくへつりルートを見つけてくれて、濡れずに通過することができた。最後に10m滝を水流をまたいで懸垂してふたつ巻き降りると大きな支流と出会う。ここにもブロックがあり、また独活とごみを採取できた。

その下は綺麗なオレンジ色の縞模様のナメが出てきた。その先もちょっとした淵やナメが出てきて最後まで飽きさせない。ゴーロをえっちらおっちら歩いていると堰堤が出てきた。踏み跡らしきものがあったので続いているかと探したが、まだ先のような。壊れた堰堤の先に比較的新しい堰堤が出てきてそこからは道が続いていた。

直前に豪雨が続いており、出発当日のお昼過ぎまで行くかどうか迷っていたが、ほんとうに行けて良かった。沢は期待していた以上に面白さが凝縮されていて、飽きることがなかった。源流部の変化のあるナメも一見に値すると思う。また機会があったら秋の紅葉シーズンに訪れてみても美しいだろう。

【グレード】通しで3級上 【地形図】ニノ峰



【行程】 7/17 駐車場(10:00)~八反滝(10:50-11:00)~25m滝上BP(16:30)

7/18 BP(6:00)~1490m二俣(10:00)~丸山(12:15-40)~1600m付近(14:00)~1430m付近BP(16:00)

7/10 BP(6:20)~1230m二俣(8:55-9:15)~1030m堰堤踏み跡(12:30)~道路(12:45)

